

## 佐渡新穂大野川のシダ植物

中川 清太郎

調査地 大野川本流大野川ダム上流標高185-200m [(畑野) 5638-73-76・77]

調査日 2008, 10, 25

調査地は佐渡国府川支流大野川の上流、大野川ダムの東方1.1kmの川筋である(標高185~200m)。林道大野線と林道小股線の分岐地点より歩き始め、砂防堰堤を右岸より越え、河道沿いを約300mほど上流に進んだ標高約200mまでの間である。来島された石沢先生のお伴をさせて頂いたときのリストである。リストは中川の標本と渡辺洋子氏のメモを集計し作成した。

調査地付近の大野川は小佐渡山地をほぼ西に向かって流下する。砂防堰堤の土砂は既に満杯であり、オニイタヤ、オニグルミ、イヌザクラ、チボガヤ、ハイイヌガヤなどの林床に、とくに左岸側の北向き斜面に多くのシダ類の自生が見られた。シダ植物に注目しリストを以下に示す。

## 大野川のシダ植物リスト

いわひば科 クラマゴケ

はなやすり科 フユノハナワラビ

きじのおしだ科 オオキジノオ、キジノオシダ、ヤマソテツ

こけしのぶ科 ヒメハイホラゴケ

こばのいしかぐま科 イヌシダ、イワヒメワラビ

ほうらいしだ科 イワガネソウ

ちゃせんしだ科 トラノオシダ

おしだ科 ホソバナライシダ、ナンゴクナライシダ、オシダ、オオクジャクシダ、ベニシダ、クマワラビ、ミヤマイタチシダ、アイアスカイノデ、イノデ、サカゲイノデ、イノデモドキ、ジウモンジシダ、ヒメカナワラビ(キヨズミシダ)、ドウリョウイノデ

ひめしだ科 ミゾシダ、ヤワラシダ

いわでんだ科 ウスヒメワラビ、ホソバイヌワラビ、ヤマイヌワラビ、シケチシダ、ミヤマシケシダ、ハクモウイノデ、オオヒメワラビモドキ、オニヒカゲワラビ、キヨタキシダ、クサソテツ、イヌガンソク

うらぼし科 ノキシノブ、オシャグジデンダ

以上のうち、とくに注目されるものを次に記す。

## 1) ヒメカナワラビ(おしだ科)(県VU)

『牧野恭次2000』には「糸魚川平岩、小滝川尾巻」の記載があり、さらに「佐渡や粟島ではまだ見ていない。県内の産地は日本海側の北限になる」と記されている。見られたのは一株のみの自生であり、標本は採取しなかった。佐渡での記録は無いので佐渡新産として記録する。

## 2) ホソバイヌワラビ(いわでんだ科)

佐渡では赤泊外山190m(5638-73-02)2006, 7, 27(中川No2359)の標本があり、2地点を佐渡新産として記録する。

## 3) イノデモドキ(おしだ科)(県VU)

群落も見られるなど個体数が多いことに注目したい。

## 4) ウスヒメワラビ(いわでんだ科)(県VU)

小形のものゝ散在する。

## 5) オオヒメワラビモドキ(いわでんだ科)(県VU)

佐渡では小佐渡に散在し北限とされる。

リストされたシダ類を分布域から、国内広布種以外を次のように大別できる。

a) 日本海要素のシダ類としてヒメハイホラゴケ、ヤマソテツがあげられる。

b) 冷温帯性のシダ類としてオシダ、ヤマソテツがあげられる。

c) 暖地性のシダ類としてアイアスカイノデ、イノデ、イノデモドキ、ウスヒメワラビ、オオクジャクシダ、オオキジノオ、オオヒメワラビモドキ、キジノオシダ、ドウリョウイノデ、トガリバイヌワラビ、ナンゴクナライシダ、ヒメカナワラビ、ホソバイヌワラビの13品があげられる。

付記 付近では暖地性のオオバナハチジョウシダ(いのもとそう科)(県NT)も下流側や小股沢に散在する。現地でコタニワタリとヒロハヤブソテツがあったように記憶するが標本に無い。

大野川(二級河川)の全長約12kmのうち、僅かな間をゆっくりと観察し、上記のような成果を得られた。



イノデモドキ



オオクジャクシダ

